ところで、みなさま、古美術はお好きですか？

誕生。喧噪を忘れる、市中の山居。

大阪屈指のビジネス街「中之島」。経済と並びカルチャー発信の拠点でもあるこのエリアにそびえ立つ中之島フェスティバルタワー・ウエストに「中之島香雪美術館」は誕生します。落ち着きと格調あるモダンな展示室には、国宝や重要文化財を展示できるハイスペックな設備を投入しました。

みどころは、日本や東アジアの古い美術品の素晴らしさを伝える貴重なコレクション、そして常設展示の茶室「中之島玄庵（げんなん）」。重要文化財である御影（神戸市）の旧村山邸にある茶室「玄庵」を、茅葺き屋根、土壁、柱などは実物と同じ部材を使い、露地にある飛び石の形や色までも忠実に再現しています。静謐な雰囲気に包まれた展示スペースをひと回りして茶室にたどりつくと、まるで旧村山邸の庭を散策しているような心地となることでしょう。御影の静寂に佇む本館に次々、2番目の美術館。都会の喧噪から逃れ、いっとき心を洗う贅沢、まさに市中の山居です。

香雪こと村山龍平をご存知ですか？

香雪美術館の「香雪」とは、所蔵品の多くを収集した村山龍平（1850〜1933）の雅号です。朝日新聞社の創業者として名を知られる村山は、日本美術の保護にも大きな役割を果たしました。

武家の出身であった村山は、幼少のころ剣術に励んでいたことから、刀剣へ関心を持ちはじめ、十四、五歳の頃になると刀匠を訪ねるほど刀剣研究に熱中していたと伝わります。新聞社を興した後も、東京や京都、大阪で刀剣の鑑定会に顔を出し鑑識眼を養いました。

やがて日本や東アジアの古い時代の美術品に収集の手を広げます。仏教美術に始まり、中国の絵画、ついで日本の漢画、文人画、南画と続きます。コレクションは武具から茶道具まで幅広いジャンルに及ぶのが特徴です。

最新の印刷機の導入や記者の海外派遣など新聞事業を開拓し、朝日新聞を報道中心の全国紙に育てた村山。その一方で、日本の文化財を保護し、茶の湯に親しみ、新しい美術を奨励することに生涯尽くしました。武家の出らしく一途で真面目で几帳面、刀剣と美術品を除いては、何ら欲がない人だったとも伝えられています。

美術を大切にしたい、ただそれだけ。

村山龍平が古美術の収集を始めたのは、明治20年代初め（当時40歳前後）の頃です。維新大変革の影響により西洋化が急激に進んだことから、日本古来の価値や文化は軽んじられ、美術品は破格の安値で海外へ持ち去られる危機に瀕していました。

日本の文化財を守る機運が高まると、村山は新聞紙面で文化財の調査・保護を訴え、自らも収集に乗り出します。また、日本美術の保護と発展のために岡倉天心と高橋健三が刊行した美術雑誌「國華」にも匿名で出資、その後、「國華」が財政難に陥ると、今度は上野理一とともに経営資金を提供し、やがて経営を引き受けます。大正12年の大震災で図版用の版木が焼失した際には、自身の邸宅や資金を惜しみなく國華社へ提供し、存続に貢献しました。「國華」の支援を通じて美術への造詣を深め審美眼を養った村山。伝統形式にとらわれない橋本雅邦の「龍虎図」屏風（重要文化財、静嘉堂文庫美術館蔵）が第四回内国勧業博覧会美術館で評価されなかった時、審査員と大喧嘩をしたエピソードも伝えられています。

村山龍平記念室では、こうした日本の文化や美術を愛し、支援し続けた生涯をたどります。

朝鮮《割高台茶碗　銘　長東割高台》（朝鮮時代、16世紀）

村山龍平記念室

「國華」創刊号表紙

《レバント戦闘図・世界地図屏風》（江戸時代、17世紀）重要文化財

香雪美術館

中之島

二〇一八年、三月二十一日

開館します。

いよいよ

2018. 3.21wed Open

《椎見大師像》（鎌倉時代、13世紀）重要文化財

瀬戸《耳付茶入　銘　不開猿》（江戸時代、17世紀）

美濃《志野茶碗　銘　朝日影》（桃山時代、17世紀）

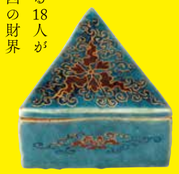
近代の数奇者が、教えてくれること。

明治35年（当時52歳）に大阪の実業界を中心とする18人が集う十八会の発起人となった村山龍平は、関西の財界人たちとの交遊を通じて茶の湯の世界を楽しむようになります。千利休との相門を流祖とする藪内流の茶を修めました。

明治44年（当時61歳）には、藪内節庵の指導を受け、藪内流家元の茶室「燕庵（えんなん）」の忠実な写しである茶室「玄庵」を建てました。藪内流では伝来の茶室の写しを建てることは、皆伝を得たものだけに許される定めです。当時、村山邸に燕庵写しが建てられたことは、破格の扱いだったようです。

「正直を以って心を守り、清浄を以って事を行い、和社を以って人と交わり、質朴を以って身を修める。」を茶法の基本としている武家点前の藪内流。それは近代の数奇者・村山龍平の実直な生き方を表しているようでもあります。

茶室「中之島玄庵」


野々村仁清
《色絵花唐草文鱗形香合》
（江戸時代、17世紀）

ここでしか見られない、珠玉の村山コレクション

中之島香雪美術館では、開館から1年間にわたり、村山龍平のコレクションの中から重要文化財19点、重要美術品22点をはじめとする300点あまりを5期にわけて一挙公開いたします。

これまで広く知られてこなかった優品をはじめ、仏教美術、書跡、近世絵画から茶道具、武具に至る幅広いジャンルの名品の数々を、新しい美術館でご覧いただきます。

村山龍平とゆかりの深い名品や収集のエピソードが伝わる作品、初公開となる逸品もあります。村山の人となりと、コレクションの全容を味わえる絶好の機会です。

「珠玉の村山コレクション」にぜひご期待ください。

（伝）周文《瀟湘八景図屏風》（室町時代、15世紀）重要文化財

中之島香雪美術館 開館記念展

「珠玉の村山コレクション」〜愛し、守り、伝えた〜

Ⅰ. 美術を愛して	2018年3月21日［水・祝］-4月22日［日］
Ⅱ. 美しき金に心をよせて	2018年4月28日［土］-6月24日［日］
Ⅲ. 茶の道にみちびかれ	2018年7月7日［土］-9月2日［日］
Ⅳ. ほとけの世界にたゆたう	2018年10月6日［土］-12月2日［日］
Ⅴ. 物語どうたにあそぶ	2018年12月15日［土］-2019年2月11日［月・祝］

｜開館時間｜10:00〜17:00（入館は16:30まで）　｜休館日｜月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、年末年始 ＊展示替えなどによる臨時休館あり
｜料金｜一般900（700）円、大高生500（350）円、小中生200（100）円　＊カッコ内は前売り（一般のみ）・20名以上団体料金。
｜主催｜公益財団法人 香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送

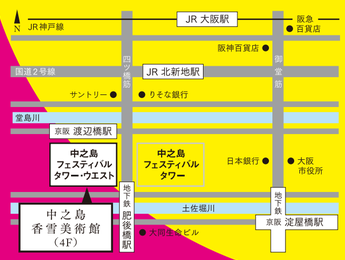
一般前売券（700円）および、枚数限定の「開館記念 全期間共通観覧券（5回分・3000円）」を発売中です。ご希望の方は、中之島香雪美術館 06-6210-3766 までお問い合わせ下さい。

中之島香雪美術館開館記念　連続講演会

第1回｜
2018年3月25日［日］
13:30〜15:00（13:00受付開始）
冷泉貴実子氏
（冷泉家時雨亭文庫常務理事）
「和歌に詠まれた四季と年中行事」

第2回｜
2018年3月31日［土］
13:30〜15:00（13:00受付開始）
熊倉功夫氏
（茶道史研究家・MIHO MUSEUM 館長）
「村山龍平翁とコレクション」

［参加料］1300円（美術館入館券〈900円〉付）
［会場］中之島会館（大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階、中之島香雪美術館隣）
［応募方法］●往復ハガキ（1枚で2名様までご応募可能）に、希望する講演名、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信はがきで参加証を郵送します。●宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階「中之島香雪美術館開館記念連続講演会」係 ●締切：第1回＝3月3日、第2回＝3月9日 消印有効 ●美術館は午前10時開館です。講演前の観覧も可能です。



〈アクセス〉
○地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅、京阪中之島線「渡辺橋」駅直結
○JR「大阪」駅桜橋口より徒歩11分
○地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅より徒歩6分
○JR東西線「北新地」駅より徒歩8分

《菩薩半跏思惟像》（白鳳〜奈良時代、もしくは新羅〜統一新羅、7〜8世紀）

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4F
TEL 06-6210-3766　http://www.kosetsu-museum.or.jp /nakanoshima/

梁楷《布袋図》（南宋時代、13世紀）重要文化財